



TITLE:

中國文學報既刊總目(1954年10月第一冊 - 1965年4月第二十冊)

AUTHOR(S):

CITATION:

中國文學報既刊總目(1954年10月第一冊 - 1965年4月第二十冊). 中國文學報 1965, 20: 1-6

ISSUE DATE:

1965-04

URL:

<https://doi.org/10.14989/177176>

RIGHT:

中國文學報既刊總目

(1954年10月第一冊～1965年4月第二十冊)

中國文學報
第二十冊

1 總 記		
虛 字 考	青 木 正 兒	4
伎樂源流考	濱 一 衛	9
紹介：人民共和國に於ける世界文學選讀書目	都 留 春 雄	2
書評：李長之「中國文學史略稿」林庚「中國文學簡史」	荒井健・一海知義・清水茂・高橋和巳・村上哲見	4
書評：魚返善雄・高田淳共譯オディル・カルタソマルク・ゲキエ「中國文學史」	島 田 久 美 子	7
書評：グレン・バクスタ「中國文學」陳世讓「中國文學」小川環樹「中國文學」	吉 川 幸 次 郎	8
書評：斯波六郎「中國文學に於ける孤獨感」	入 矢 義 高	2
書評：斯波六郎「中國文學に於ける孤獨感」	福 永 光 司	9
書評：「浦江清文錄」	清 水 茂	11
書評：倉石武四郎・須田禎一編譯「歷代詩選」	武 部 利 男	15
書評：北京大學中文系文學專門化一九五五級集體編著「中國小說史稿」	橋 本 堯	15
書評：李希凡「論中國古典小說的藝術形象」	入 谷 仙 介	16
書評：夏承燾・吳熊和「讀詞常識」	小 川 環 樹	19
書評：王力「漢語詩律學」	小川環樹・入矢義高	9
書評：張相「詩詞曲語辭匯譯」	入 矢 義 高	1
書評：彭楚南譯N・Iコンラッド「論漢語」	清 水 雄 二 郎	2
2 先秦文學		
詩經とヨーロッパの民謡	ジャン・ピエール・ディエニ	18
書評：E・パウンド「詩經」英譯	バートン・ワトソン	3
左傳の書きかた一その文學的側面について一	バートン・ワトソン	7
3 漢代文學		
項羽の垓下歌について	吉 川 幸 次 郎	1
漢の高祖の大風歌について	吉 川 幸 次 郎	2
書評：吉川幸次郎「項羽の垓下歌について」「漢の高祖の大風歌について」	桑 原 武 夫	4
賈誼の賦について	金 谷 治	8
賈誼の「鵬鳥の賦」の立場	伊 藤 富 雄	13
史記にあらわれた司馬遷の因果應報の思想と運命觀	今 鷹 眞	8
史記における人間描寫	田 中 謙 二	13
身振りと文學—史記成立についての一試論—	宮 崎 市 定	20

文學としての孔子世家

書評：ワトソン「太史公司馬遷」同「太史公書—司馬遷の史記よりの翻譯」

書評：賀次君「史記書錄」

韓詩外傳の一考察—説話を主體とする詩傳の持つ意義—

推移の悲哀—古詩十九首の主題—(上)(中)(下)

書評：バートン・ワトソン「古代の中國文學」

敦煌出現の胡笳十八拍

紹介：「胡笳十八拍」論争

4 三國晉南北朝文學

書評：小尾郊一「中國文學に現れた自然と自然觀—中世文學を中心として—」

六朝文學に現はれた山水觀

「賦得」の意味について

文選挽歌詩考

王粲詩論考

阮籍の詠懷詩について(上)(下)

嵇康詩小論

嵇康の飛翔

書評：D・ホルツマン「嵇康の生涯と思想」

嵇康・阮籍から陶淵明へ—矛盾感情の文學的處理における三つの型—

陸機の傳記とその文學(上)(下)

陸機の生涯と「文賦」制作の正確な年代

陸機文賦理論與音樂之關係

潘岳論

西晉の詩人張協について

詩人としての郭璞

歸去來の辭について

書評：王瑤編注「陶淵明集」

書評：葉笑雪「謝靈運詩選」

書評：網祐次「中國中世文學研究—南齊永明時代を中心として—」

劉勰「文心雕龍」文學論の基礎概念の検討

書評：斯波六郎「文心雕龍原道篇札記」「文心雕龍札記(≡)」

書評：高松亨明「詩品詳解」

任昉述異記について

冥界游行(上)(下)

バートン・ワトソン 2

今 鷹 眞 18

神 田 喜 一 郎 10

西 村 富 美 子 19

吉 川 幸 次 郎 10, 12, 14

金 谷 治 19

小 島 祐 馬 13

入 矢 義 高 13

寛 文 生 19

小 尾 郊 一 8

斯 波 六 郎 3

一 海 知 義 12

伊 藤 正 文 20

吉 川 幸 次 郎 5, 6

興 膳 宏 15

興 膳 宏 16

福 永 光 司 13

鈴 木 修 二 18

高 橋 和 巳 11, 12

陳 一 海 世 知 義 譯 8

饒 宗 頤 14

高 橋 和 巳 7

一 海 知 義 7

興 膳 宏 19

吉 岡 義 豐 6

一 海 知 義 6

高 木 正 一 12

小 尾 郊 一 13

高 橋 和 巳 3

吉 川 幸 次 郎 3

入 矢 義 高 14

森 野 繁 夫 13

前 野 直 彬 14, 15

5 唐五代文學

新撰類林抄校讀記

書評：吉川幸次郎・桑原武夫「新唐詩選續篇」
倪海曙「唐詩的翻譯」

書評：前野直彬注解「唐詩選」

搜玉小集について

書評：ルイ・リコー，ニエム・トアン共譯「武則天」（佛譯）

盛唐詩人と前代の詩人—盛唐に於ける文學論の一側面—(上)(下)

王維の前半生

中年期の王維

晩年の王維(上)(下)

書評：チャン・インナン，レウィス・ウォルムスレイ「王維の詩」英譯

李白の樂府について

書評：王瑤「李白」林庚「詩人李白」武部利男「李白小傳」

書評：黃錫珪「李太白年譜」詹鐸「李白詩文繫年」

吾道長悠悠—杜甫の自覺—

乾坤と天地—杜甫の世界觀の手がかりとして—

杜詩における抒情

杜甫と月

杜甫の馬・鷹の詩について

杜甫の對句についての一考察

出塞と何國の連章詩 前出塞と後出塞

杜詩「聞官軍收河南河北」考

論杜甫夔州詩

杜甫「秋興八首」序說

杜甫「登岳陽樓」の詩について—「吳楚東南坼，乾坤日夜浮」考—

杜甫與高適—杜詩札叢之一—

杜甫と元結・「篋中集」の詩人たち

放翁と杜甫

陸游の目に映じた杜甫

日本に於ける杜甫

藤村における杜甫—「ただひとり岩をめぐりて，この岸に愁を繫ぐ」—

紹介：杜甫誕生千二百五十周年

王梵志について(上)(下)

韓愈南山詩與曇無讖馬鳴佛所行讚

書評：陳友琴「白居易詩評述彙編」

小 川 環 樹 11

清 水 茂 3

花 房 英 樹 18

伊 藤 正 文 15

都 留 春 雄 15

伊 藤 正 文 8, 9

入 谷 仙 介 11

入 谷 仙 介 15

入 谷 仙 介 18, 19

バートン・ワトソン 11

島 田 久 美 子 9

福 永 光 司 4

島 田 久 美 子 10

小 川 環 樹 17

入 谷 仙 介 17

倉 田 淳 之 介 17

吉 川 幸 次 郎 17

高 木 正 一 17

高 木 正 一 1

杉 本 行 夫 17

田 中 謙 二 17

饒 宗 頤 17

黑 川 洋 一 4

黑 川 洋 一 6

夏 承 燾 17

伊 藤 正 文 17

一 海 知 義 17

前 野 直 彬 17

神 田 喜 一 郎 17

黑 川 洋 一 16

笈 文 生 17

入 矢 義 高 3, 4

饒 宗 頤 19

花 房 英 樹 14

書評：近藤春雄「長恨歌傳について」	花房英樹	2
元稹の豔詩及び悼亡詩について	山本和義	9
柳宗元の生活體驗とその山水記	清水茂	2
柳宗元詩考	寛文生	16
書評：施子倫「柳宗元年譜」	寛文生	10
賈島	荒井健	10
李賀の詩一特にその色彩について一	荒井健	3
書評：石川一成「李長吉の色彩感覺」李嘉言「李賀與晚唐」「詞的起源與唐代政治」「李賀詩校釋」上尾龍介「苦吟と象徴」「李賀と孟郊」「夜の詩人」	荒井健	7
書評：荒井健注「李賀」葉葱奇編訂「李賀詩集」	興膳宏	12
李義山の無題詩	鈴木虎雄	6
溫飛卿の文學	村上哲見	5
書評：夏承燾「唐宋詞人年譜」	清水茂	5
教坊記辨附望江南菩薩蠻小考	村上哲見	10
燭背・燈背ということ一讀詞瑣記一	村上哲見	1
紹介：李後主の詞に關する討論	村上哲見	7
書評：A・ホフマン「李煜の詞」「春花秋月」	村上哲見	2
沈亞之と小説	内山知也	12
杜牧と傳奇	清水茂	1
書評：アーサー・ウェイリー譯注「敦煌の歌謠と説話」	入矢義高	16
書評：周紹良「敦煌變文彙録」	入矢義高	5
書評：蔣禮鴻「敦煌變文字義通釋」	入矢義高	11
6 宋代文學		
書評：錢鍾書「宋詩選註」	小川環樹	10
新五代史の文體の特色	小川環樹	18
蘇軾詩論稿	山本和義	13
詩における比喩の工拙と雅俗一蘇東坡の場合一	小川環樹	2
岳飛「滿江紅」詞考辨	夏承燾	16
書評：歐小牧「愛國詩人陸游」	小川環樹	7
書評：朱東潤「陸游傳」	小川環樹	13
書評：朱東潤「陸游研究」于北山「陸游年譜」	小川環樹	16
放翁と杜甫	一海知義	17
陸游の目に詠じた杜甫	前野直彬	17
辛棄疾「菩薩蠻」（鬱孤臺下）補考	小川環樹	14
宋代演劇窺管一陸游・劉克莊詩を資料として一	岩城秀夫	19
書評：胡忌「宋金雜劇考」	岩城秀夫	8

書評：孫楷第「論中國短篇白話小説」葉德均
「宋元明講唱文學」

小 川 環 樹 1

7 金元文學

明七子の先聲—楊維禎の文學觀について—

前 野 直 彬 5

文學としての「董西廂」(上)(下)

田 中 謙 二 1,2

元刊古今雜劇三十種の流傳

岩 城 秀 夫 14

書評：嚴敦易「元劇斟疑」

岩 城 秀 夫 15

書評：顧學頤選註「元人雜劇」

入 矢 義 高 8

紹介：關漢卿研究

田 中 謙 二 12

書評：影弘治刊本「西廂記」王季思校注
「西廂記」吳曉鈴校註「西廂記」王季思
「從鶯鶯傳到西廂記」

田 中 謙 二 4

8 明代文學

劉基詩序說

福 本 雅 一 18

書評：F・W・モート「詩人高啓」

入 谷 仙 介 20

王世貞の古文辭よりの脱化について

松 下 忠 5

袁中郎の性靈說

松 下 忠 9

明の宮廷と演劇

岩 城 秀 夫 1

書評：八木澤元「明代劇作家研究」

岩 城 秀 夫 11

紹介：最近の中國における琵琶記論争

岩 城 秀 夫 6

戯曲荊釵記はいかに改作されているか

岩 城 秀 夫 6

書評：人民文學出版社「水滸」作家出版社「水滸」
人民文學出版社「水滸全傳」

清 水 茂 1

書評：R・アーウィン「水滸傳の發達史」

小 川 環 樹 3

殘唐五代史演義論—英雄中心主義—

橋 本 堯 20

「金瓶梅詞話」所引の寶卷について

澤 田 瑞 穂 5

書評：J・J・L・ドイフェンダク「中國の神曲」

前 野 直 彬 2

書評：ビショップ「三言の研究」

小 川 環 樹 5

書評：馮夢龍編著顧學頤校注「醒世恒言」

田 中 謙 二 6

9 清代文學

「宋詩鈔」の選者たち—「人」によって「史」を存す

湯 淺 幸 孫 20

紅樓夢の構成について

加 藤 知 彦 4

對人稱呼の使用における「正格」と「破格」について—
「紅樓夢」における文體論的研究—

山 口 明 子 11

紹介：紅樓夢研究をめぐる批判討論の経過と論點

村 上 哲 見 2

10 現代文學

書評：王瑤「中國新文學史稿」

相 浦 杲 1

書評：尾坂徳司「中國新文學運動史」

島 田 久 美 子 8

書評：人民文學出版社「魯迅全集」増田渉・松枝茂夫・竹内好編「魯迅選集」

魯迅「野草論」

魯迅の小説の一側面―主として作品「藥」について

資料：藤野先生小傳

〈子夜〉について

茅盾文學序説―「腐蝕」を中心として―

書評：加藤平八譯茅盾「東洋のリアリズム」

紹介：胡風批判の経過とその論點

「家」について―巴金の小説意識についての一考察―

「太陽照在桑乾河上」をめぐるつて

紹介：丁玲批判について

胡萬春という作家

「百家争鳴」その後

紹介：第三回中國文學藝術工作者代表大會をめぐるつて

11 比較文學

書評：太田青丘「日本歌學と中國詩學」

書評：小島憲之「上代日本文學と中國文學」（上）

「女仙外史」と幸田露伴の「運命」

藤村における杜甫―「ただひとり岩をめぐるて、この岸に愁を繋ぐ」―

日本に於ける杜甫

詩經とヨーロッパの民謡

ジャン・ピエール・ディエニ

12 日本漢文學史

書評：小島憲之校注「懷風藻・文華秀麗集・本朝文粹」

書評：川口久雄「平安朝日本漢文學史の研究」

隠れたる批評家―清田儋叟の批評的業績―

13 學界展望

紹介：フランスにおける中國文學研究の現状

紹介：中國文學の領域におけるドイツ支那學の業績

尾崎雄二郎 6

吉田富夫 16

相浦杲 10

藤野恒道 4

山田富夫 9

吉田富夫 12

谷友幸 11

太田進 3

下條一誠 11

島田久美子 5

相浦杲 8

相浦杲 18

入矢義高 6

吉田富夫 14

船津富彦 9

清水茂 18

三木克巳 3

黒川洋一 16

神田喜一郎 17

入矢義高 20

清水茂 16

中村幸彦 4

M・カルタンマルク 18

興膳宏譯

ギェンター・デボン 20

村上哲見譯